

介護職員初任者研修カリキュラム

社会福祉法人 陽谷福祉会

| | 研修項目 | 時間数 (h) | 科目 | 内容 | 講師 | 資格 |
|---|---------------------|---------|-------------------------|---|------|-------|
| 1 | 職務の理解 | 6 | 1 多様なサービスの理解 | 研修の全体像をイメージしてもらうために研修全体の構成と各科目の関連性の説明し、以降の学習の効果・効率の向上を促す。 | 柿本貴之 | 施設長 |
| | | | 2 介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 当施設における様々な実例や体験談を交えながら、介護職として働く現場や仕事の内容をできる限り具体的にイメージできるよう学ぶ。 | | |
| 2 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 9 | 1 人権と尊厳を支える介護 | 利用者の尊厳について、当施設における具体的な事例をもとに、それを傷つける言動を考えさせるなどし、尊厳という概念に対する気づきを促す。 | 尾道 到 | 社会福祉士 |
| | | | 2 自立に向けた支援 | 具体的な事例を示し、自立という概念に対する気づきを促すとともに、利用者の残存機能を活用しながらの自立支援等に資するケアを学ぶ。 | | |
| 3 | 介護の基本 | 6 | 1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 介護職としての基本的な役割や求められる専門性およびサービスごとの特性、医療や看護など他職種との連携の必要性を学ぶ。 | 三宮広丈 | 介護福祉士 |
| | | | 2 介護職の職業倫理 | 介護職としての職業倫理、地域におけるサービス提供者としての社会的責任の重要性を学ぶ。 | | |
| | | | 3 介護における安全の確保とリスクマネジメント | 典型的な事故や感染など介護における主要なリスクを実例を交えながら知るとともに、緊急対応の重要性を学ぶ。 | 保木智子 | 保健師 |
| | | | 4 介護職の安全 | 介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレスを知るとともに、それらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を学ぶ。 | | |
| 4 | 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | 9 | 1 介護保険制度 | 介護保険制度の理念や制度の目的、仕組みを理解する。また、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて学ぶ。 | 吉岡正洋 | 社会福祉士 |
| | | | 2 医療との連携とリハビリテーション | 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行える医行為について学ぶ。施設における看護と介護の役割・連携について学ぶ。 | 森本尊子 | 看護師 |
| | | | 3 障害者自立支援制度およびその他制度 | 利用者の生活を中心に考えるという視点に立ち、その支援のための障害者自立支援制度やその他制度のサービスの位置づけを学ぶ。 | 吉岡正洋 | 社会福祉士 |
| 5 | 介護におけるコミュニケーション技術 | 6 | 1 介護におけるコミュニケーション | 高齢者のコミュニケーション能力が一人ひとり異なるという認識を持ち、基本的なコミュニケーション上のポイントを学ぶとともに、相手の心身機能にあわせた配慮が必要であることを理解する。 | 斧田秀子 | 介護福祉士 |
| | | | 2 介護におけるチームのコミュニケーション | チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を学ぶ。記録の機能と重要性を学ぶとともに、介護職一人ひとりがそのことを理解することが必要であることの気づきを促す。 | | |
| 6 | 老化の理解 | 6 | 1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 | 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について学ぶ。 | 保木智子 | 保健師 |
| | | | 2 高齢者と健康 | 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて具体例を交えながら学ぶとともに、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性を理解する。 | | |

| | | | | | | | |
|---|--------------------|----|---|--------------------------------------|---|-------|---------------------|
| 7 | 認知症の理解 | 6 | 1 | 認知症を取り巻く状況 | 認知症の利用者の心理・行動の実際を実例等を通じて知り、認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について学ぶ。 | 森本尊子 | 看護師 |
| | | | 2 | 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | 認知症の中核症状と行動・心理症状等の基本的特性、およびそれに影響する要因を学ぶとともに、認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防についても学ぶ。 | | |
| | | | 3 | 認知症に伴うことと体の変化と日常生活 | 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、および介護の原則について学ぶ。また、認知症の利用者の生活環境の意識やその在り方について、主要なキーワードを理解しておく。 | | |
| | | | 4 | 家族への支援 | 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて実例を交えながら理解する。また、認知症の受容過程での援助や介護負担の軽減について学ぶ。 | | |
| 8 | 障害の理解 | 3 | 1 | 障害の基礎的理解 | 障害の概念とICF(国際生活機能分類)、障害者福祉の基本的な考え方を学ぶ。介護においてこれらの必要性の理解を促す。 | 平井裕見子 | 看護師 |
| | | | 2 | 障害の医学的側面 生活障害 心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点について学ぶ。 | | |
| | | | 3 | 家族の心理、かかわり支援の理解 | 家族の心理やその介護負担を軽減するにあたっての留意点等を学ぶ。また、障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方についても学ぶ。 | | |
| 9 | こころとからだのしくみと生活支援技術 | 75 | 1 | 基礎知識の学習 | 介護の基本的な考え方として理論に基づく介護や法的根拠に基づく介護、我流介護の排除について学ぶ。 | 保木智子 | 保健師 |
| | | | 2 | 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 学習や記憶、感情、意欲に関する基礎知識を学び、人の記憶の構造や意欲等を支援と結び付けて理解する。また、老化や障害の受容やこころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響について学ぶ。 | 平井裕見子 | 看護師 |
| | | | 3 | 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨や関節等に関する基礎知識、神経に関する基礎知識などを学び、なぜ行動が起こるのかを理解するとともにこころとからだを一体的に捉える。 | 平井裕見子 | 看護師 |
| | | | 4 | 生活と家事 | 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について学び、家事援助の機能と基本原則について理解する。 | 斧田秀子 | 介護福祉士 |
| | | | 5 | 快適な居住環境整備と介護 | 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について学ぶ。 | 吉元 滋 | 福祉住環境 コーディネーター2級 |
| | | | 6 | 整容に関するこころとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 身体状況にあわせた衣服の選択、着脱、身支度等について学び、装うことや整容の意義について理解し、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができるようにする。 | 三宮広丈 | 介護福祉士 |
| | | | 7 | 移動に関するこころとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を学ぶ。体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができるようにする。 | 中川佐紀子 | 介護福祉士 |
| | | | 8 | 食事に関するこころとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 食事に関する基礎知識、食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法、食事に関連した用具を学ぶ。食事に関するからだの仕組みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができるようにする。 | 今村やよい | 管理栄養士 |
| | | | | | 猪上 香 | 歯科衛生士 | |

| | | | | | | |
|----|------------|----|--------------------------------------|---|----------------------|----------------|
| | | 9 | 入浴と清潔保持に関するところとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を学ぶ。入浴に関するからだの仕組み、羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認などについて理解し、指示に基づいて介助を行うことができるようにする。 | 中川佐紀子 | 介護福祉士 |
| | | 10 | 排泄に関するところとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 排泄に関する基礎知識、排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を学ぶ。爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因を理解し支援方法を学ぶなど、排泄に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいて介助を行うことができるようにする。 | 保木清隆 佐藤真司 | 介護福祉士 介護福祉士 |
| | | 11 | 睡眠に関するところとからだの仕組みと自立に向けた介護 | 睡眠に関する基礎知識、睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を学ぶ。快い睡眠を阻害するところとからだの要因を理解し支援方法を学ぶなど、睡眠に関するからだの仕組みを理解し、指示に基づいた介助を行うことができるようにする。 | 保木清隆 | 介護福祉士 |
| | | 12 | 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護 | ターミナルケアの考え方、対応の仕方、留意点や本人・家族への説明と了解など終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援などについて学ぶ。 | 黒川保志子 | 看護師 |
| | | 13 | 介護過程の基礎的理解 | 介護過程の目的や意義、チームとしてのアプローチについて学ぶ。 | 伊東みはる | 介護福祉士 |
| | | 14 | 総合生活支援技術演習 | 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 | 松本 修・ 佐藤真司 | 介護福祉士 |
| 10 | 振り返り | 4 | 1 振り返り 2 就業への備えと研修終了後の継続的な研修 | 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことや根拠に基づく介護についての要点を再確認する。 修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきかの理解を促す。また、次のステップ(職場環境への早期対応、介護資格の取得など)へ向けての課題を受講者が認識できるように促す。 | 伊東みはる | 介護福祉士 |
| 11 | 施設実習 | 18 | 1 施設サービス 2 ホームヘルプサービス 3 在宅サービス | ※「実習計画」参照 | 佐藤真司 斧田秀子 高橋建二 | 介護福祉士 |
| 12 | 人権問題に関する理解 | 2 | 1 人権啓発に関する基礎知識 | | 行政職員 | 日出町社会福祉協議会 |
| 13 | 筆記試験終了評価 | 1 | 1 筆記試験 | | 三宮広丈 | 介護福祉士 |
| 14 | 実技評価試験 | 1 | 1 実技確認試験 | | 三宮広丈 | 介護福祉士 |